

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院薬学研究科 薬学専攻
教育プログラム・コース名	薬学がん研究者養成コース（博士課程）
対象者	慶應義塾大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	専門化が著しいがん診療の進歩に追随し、がん患者にベストの医療を提供できる薬剤師や薬学研究者を養成する。また、ゲノム医療に代表されるバイオインフォマティクスに参画し、その成果を臨床の現場に還元できる研究マインドの高いがん専門薬剤師、あるいは臨床の現場で生じた疑問を研究を通じて解決できる臨床マインドの高いがん研究者を育成する。
修了要件・履修方法	講義科目、演習、課題研究を合わせて30単位以上を修得すること。 がん領域の課題研究を行ってその結果を博士論文としてまとめた上で、本大学院が行う博士論文審査に合格すること。
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習（6単位）、課題研究（16単位） <必修科目> 講義科目として臨床研究導入講義（実習含む）（1単位）、大学院特別講義（3単位）、医療系薬学特論I（2単位）、医療系薬学特論II（2単位） <選択科目> ・ ゲノム医療など基礎薬学に関するがん専修特論I 1単位、緩和医療など臨床薬学に関するがん専修特論II 1単位。 ・ 国内外における集中的がん臨床研修についても単位を附与する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	1年次の臨床研究導入講義における医療倫理教育。 <u>ゲノム医療に代表されるバイオインフォマティクスを取り込んだがん専修特論Iの設置。ライフステージに応じたがん医療や緩和医療等をテーマとした講義や参加型の症例検討会をがん専修特論IIとして行う。国内がん専門病院におけるがん臨床研修や薬学部海外協定校の関連病院における海外がん臨床研修を実施する。また、英語による発表会の機会を設け、国際化に対応できる語学力修得も目指す。</u>
指導体制	当研究科には34名の大学院指導教員がおり、演習と課題研究は各講座で、講義実習はそれぞれ担当を決めて遂行する。がん専修特論Iは医学研究科と共同で講義を行う。がん専修特論IIでは、希望者にはがん専門薬剤師、認定薬剤師等の単位が取得できるシステムとする。グループ内の他研究科の学生の受講を呼びかける。国内外医療機関におけるがん臨床研修では、相手方および当方の教員および学生がお互いに行き来して研修を行う。国内では慶應義塾大学病院等、海外では米国ノースカロライナ大学、アイオワ大学、ワシントン大学、テキサステック大学、タイ・コンケン大学。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	当コースを修了した学生は、ファーマコゲノミクス等の技術や知識を身につけ、病院薬剤部などに就職し高度ながん診療に対応できる薬剤師を養成する。また、がん研究を通じて身につけたゲノム創薬等の高度な技術や知識を、医療行政や製薬企業等において発揮できる人材を育成する。

受入開始時期	平成30年 4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4